

助成事業実施報告書

団体名 陸軍少飛平和祈念の会

代表者 会長 指田和明



1. 助成プロジェクト名

陸軍少年飛行兵・平和祈念プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東京陸軍少年飛行兵学校の生徒と職員による「少飛平和祈念館設立委員会」は、海軍予科練のような資料館の創設を求めてきました。この活動を平成28年9月に引き継ぎ、市民を交え、元少年飛行兵をビデオ収録してその声を後世に残し、将来的に少飛平和祈念館の設立を目指します。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

陸軍の少年飛行兵(少飛)は、海軍の飛行予科練習生(予科練)と共に、若くして終戦時の特攻を担っていました。少飛の養成校の拠点が東京にあったことを再認識し、元少飛の方々の苦難や功績を、ビデオに収録し、将来の世代に伝えていきます。また、茨城県霞ヶ浦の予科練平和記念館や南九州の知覧特攻平和会館等と並ぶ、陸軍少飛平和祈念館が必要と考えています。多摩地域に集中していた航空機の軍需工場等を再確認するとともに、元少飛の方々の思いを受け止め、戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継ぐことが大切と考えプロジェクトを進めています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

(1)高齢化した元少飛の方々のビデオ証言の収録を重点としています。最も若い元少飛の方でも90歳程となりビデオ収録の限界に近づいています。(2)慰霊の機会などを通じて、元少飛の方々の情報を収集し、協力を求めています。(3)多摩地域の戦争遺跡等の住民団体と連携し、行政等への要望を進めます。(4)元少飛や専門家の講演会を持ち、会の周知と会員増を図ります。(5)九州大刀洗、萬世、知覧、鹿屋等の平和施設との連携を図っていきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

助成金を受けて作成したパンフレットやHPを利用し、いろいろな機会を活かして会の周知を図ってきました。この結果、会員は当初の15名程度から70名と増加しました。元少年飛行兵の証言ビデオ30名の目標をほぼ達成し、ビデオ証言第一集を刊行しました。生存されている元少年飛行兵の方々も少なくなってきました。令和2年度は引き続きビデオ収録を、可能であれば地方在住の方を含めて実施し、証言集の発行を進めます。また近隣の平和関連の住民団体との連携を図ります。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

元少飛の生存者が限られてきて、ビデオ収録も限界に近づきつつあります。本年度も、引き続きビデオ収録を実施し、目標30名への上積みを図ります。東京周辺は残り少なくなってきた状況から、予算が獲得できれば、地方在住の元少年飛行兵をも対象に、ビデオ収録を進めていく必要があります。本会の活動趣旨の理解を求めてPR活動を並行して行い、会員の増加を図ってまいります。

7. 参考資料

元少年飛行兵のビデオ収録と証言集の刊行に関する新聞記事。 <http://sho-hi.sakura.ne.jp/>

元少年飛行兵 ビデオ証言第一集

元少年飛行兵 ビデオ証言第一集

2019年8月15日 初版第1刷発行

企画・監修 陸軍少飛平和祈念の会
編集・製作 陸軍少飛平和祈念の会
制作協力 (株)ジェイクリエイト
〒101-0052
千代田区神田小川町3-7-13 ヴァンサンクビル6F
TEL 03-6273-7135 / FAX 03-6273-7136
発行 陸軍少飛平和祈念の会
heiwakinen@sho-hi.jp
事務局 〒190-0004
立川市柏町4-45-27
(本誌は真如苑の多摩地域市民活動助成金を利用して作成しました)